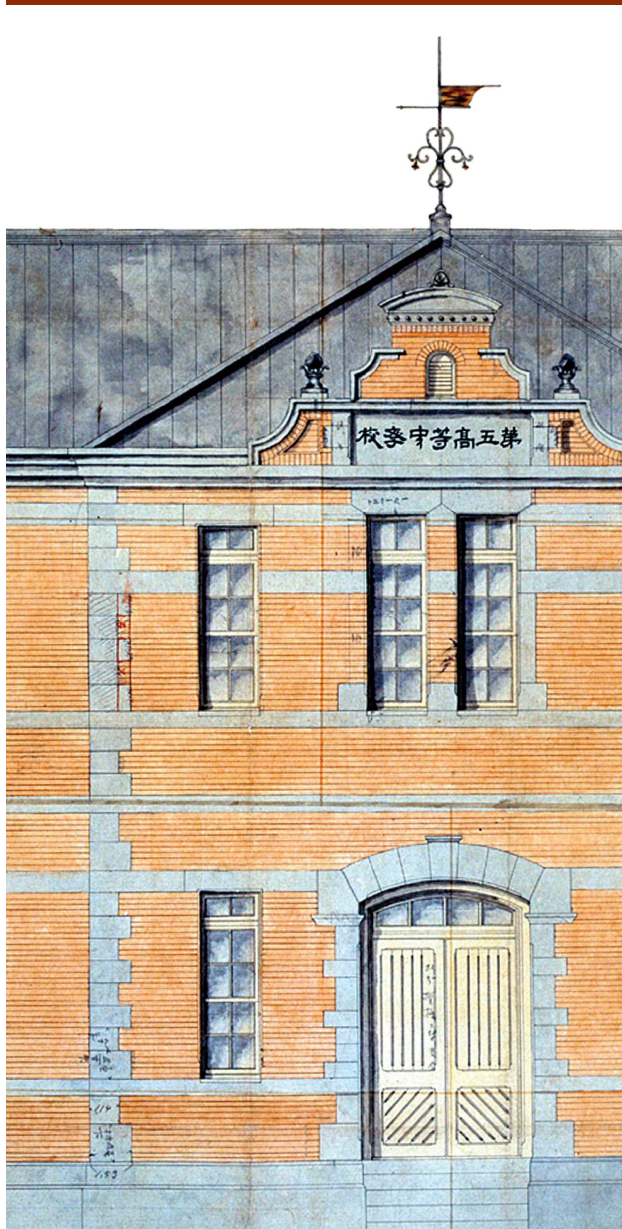




国立大学法人

熊本大学

**熊本大学大学院社会文化科学教育部
熊本大学・マサチューセッツ州立大学
ボストン校紛争解決学国際連携専攻
(ジョイントディグリープログラム)**

2020.8.18現在



1. ジョイントディグリープログラム (JDP) とは？
2. 令和3年4月からの熊本大学大学院社会文化科学
教育部教育体制
3. 熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校
(UMass Boston) JDPの概要・入学案内
4. 学費・奨学金等
5. UMass Bostonの概要



1. ジョイントディグリープログラム (JDP) とは？



ジョイントディグリープログラム（以下「JDP」という。）は、連携する複数大学が共同して教育プログラムを構築し、これを修了した学生に対して、両大学が連名で単一の学位を授与します（＝ジョイントディグリー）。通常と同じ大学院在籍期間において、一定期間の留学の機会を得ることができ、かつ海外大学からも学位という形で海外での学修が証明されます。

このような海外大学との共同学位プログラムは平成26年11月の大学設置基準の一部改正により制度上実施することが可能となりました。

【参考】ダブルディグリープログラム

ダブルディグリープログラムは、連携する大学間において、各大学が開設した同じ学位レベルの教育プログラムを学生が修了し、各大学の卒業要件を満たした際に、各大学がそれぞれ当該学生に対し学位を授与するものです。



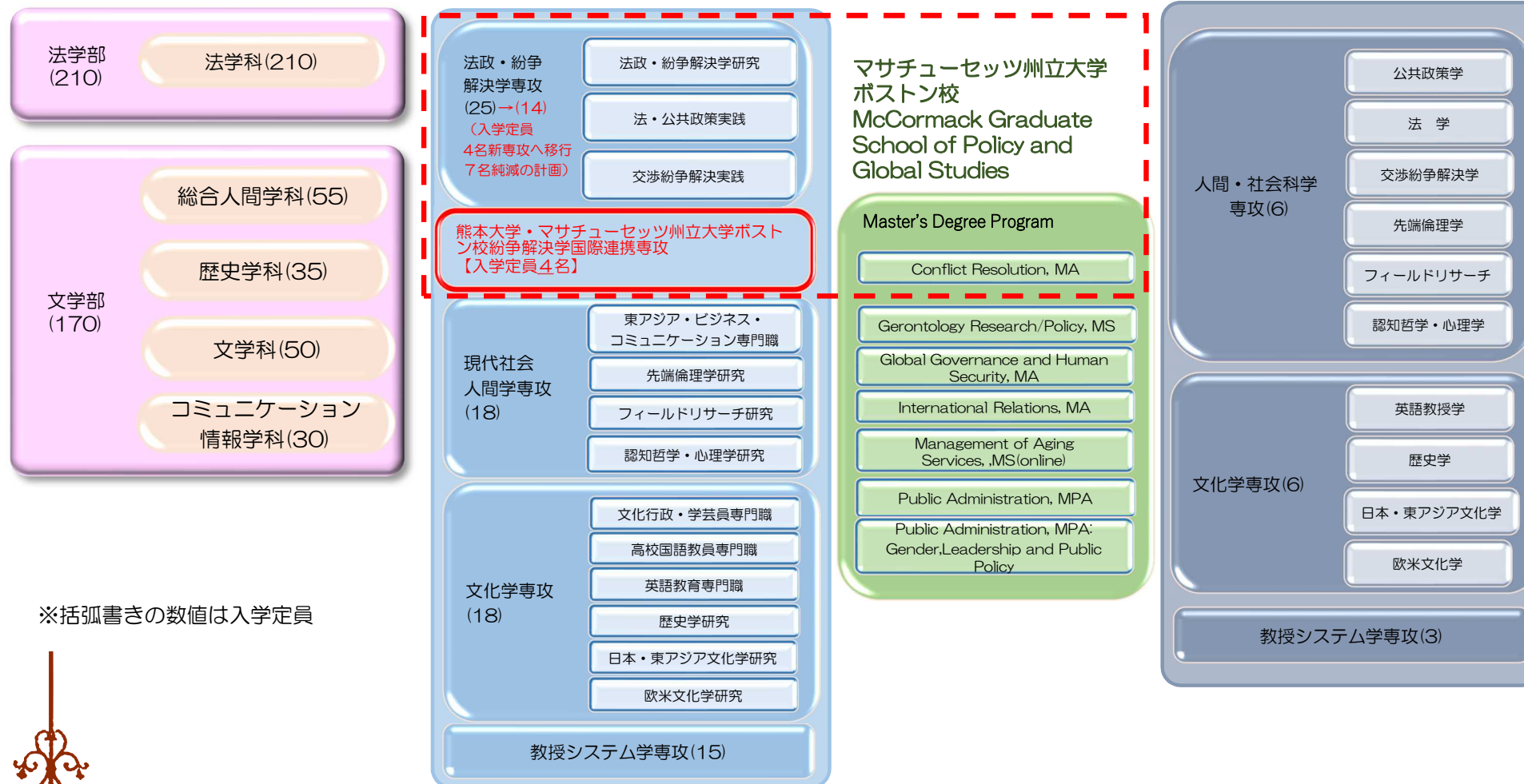
2. 令和3年4月からの熊本大学大学院社会文化科学 教育部教育体制



学 部

博士前期課程（専攻・コース）

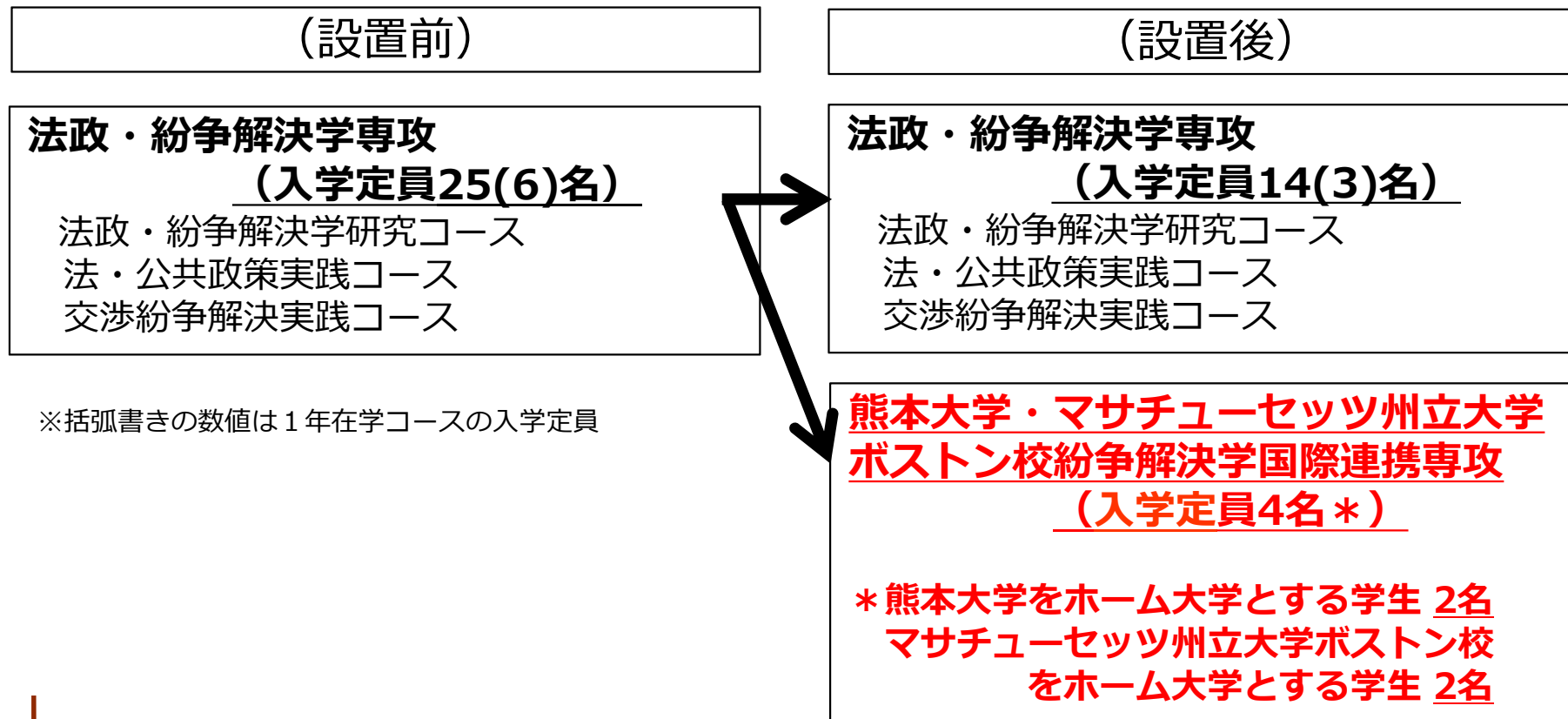
博士後期課程（専攻・領域）



※括弧書きの数値は入学定員



✓ 設置後の専攻・コースの比較



※括弧書きの数値は1年在学コースの入学定員



3. 熊本大学・UMass Boston JDP の概要・入学案内



✓ 養成する人材像

熊本大学大学院社会文化科学教育部とマサチューセッツ州立大学ボストン校（以下「UMass Boston」という。）では、両大学が有する紛争解決学分野の強みを活かし、統一された学位プログラムを設けることにより、米国において発展した紛争解決学の高度な専門知識を習得し、熊本、日本、そして米国のそれぞれの地域におけるローカルな紛争はもとより、国際レベルのグローバルな紛争に対して対話的解決を実践できる人材を養成します。

さらに、JDPの特長を活かし、英語を共通言語としてコミュニケーションする力を備え、多様な人たちと協調した活動を牽引する日本やアジア、米国の架け橋となる人材を養成します。





✓ 3つの教育ポリシー

ディプロマ・ポリシー

本専攻では、以下のような能力を備えた人材に修士の学位を授与する。

- ①ローカル及びグローバルな紛争に関する専門知識を修得し、対話的解決を実践できる。
- ②日米の紛争文化及びその解決の制度に関して深い理解をもっている。
- ③紛争を現代社会の価値変容、社会変容の機会として理解できる。
- ④グローバルなコミュニケーション力を培い、多様な人たちと協調した活動ができる。





カリキュラム・ポリシー

本専攻は、紛争解決学の教育に関して、日米双方の紛争解決の制度と課題を学び、国際的視野に立ち、紛争を価値変容の機会と捉え、グローバルな課題解決への取組や役割を担う人材を育成するために、熊本大学とUMass Bostonの共同カリキュラムを次のような方針に沿って作成し、実施する。

- ① 2年間の履修にかかる科目群を、＜基礎科目群＞＜応用科目群＞＜インターンシップ＞＜特別研究A、B＞に分けて置く。
- ② 学生は、2年間の履修の前半で、紛争解決学の基礎知識を得る科目を履修する。また両大学による共同開設科目を置いて、理論的理解の統一を図る。
- ③ 応用的理論と技法についての科目を後半に置く。また熊本を始めとした地域紛争に関する科目を応用科目群として位置づけ、日米の紛争の違いを俯瞰できるようにする。
- ④ 実践的な科目としてインターンシップを必修として置く。
- ⑤ 熊本大学及びUMass Bostonの共同の研究指導のもと、特別研究A、Bを履修する。





アドミッション・ポリシー

近年、日本社会でも、人々の意識の変化、社会構造の変化、グローバル化等により、以前では考えられなかった紛争（コンフリクト）現象が生じており、社会的課題となってきた。また、各地の様々な災害が、被災地域あるいはその外側にも紛争をそのたびにもたらしており、その解決の手法及びシステムの構築が求められている。

そこで本専攻では、次のような人を求めます。

- ①身近な人間関係、家庭、組織また地域、国、国際社会レベルなどの、ローカルな、またグローバルな紛争を現代社会の重要で必須の課題として捉える人
- ②そうした紛争の法的または公共政策的な解決のみならず、対話や行動科学に基づく方法などによって、相互的・建設的に、そして平和的に解決する方法・システムを学び、より良い社会の創出に貢献したいという意欲に満ちた人
- ③英語を共通言語として学び、海外での学習に意欲のある人
- ④日米の文化的な相違にも関心を払い、協調して学習する意欲のある人





✓ 学生募集要項

こちらから、ご参照ください。

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuinnyushi/shabun>

※令和3年度（2021年度）入学者と対象とした学生募集要項は、**令和2年10月上旬頃に公表予定です。**

【出願期間】 令和2年12月 2日（水）～12月 8日（火）17時必着

【試験日】 令和3年 2月 6日（土）

【合格発表日】 令和3年 2月22日（月）

注）新型コロナウイルスや自然災害の影響により、試験日等を変更する場合があります。





✓ 募集人員

2名／年度

※専攻全体の募集人員は4名（熊本大学2名＋UMass Boston学生2名）

✓ 出願資格

本学大学院社会文化科学教育部博士前期課程の出願資格（大学を卒業した者、学士の学位を授与された者（令和3年3月31日までの見込者を含む。）等）に加えて、UMass Bostonの以下の出願資格を満たす必要があります。詳細は、学生募集要項で確認してください。

- (1) 大学の学部におけるGPA※が2.75以上の者
- (2) 認証された高等教育機関で学士の称号を与えられた者（令和3年3月31日までに授与見込みの者を含む。）

※GPA は、最高点を4点とし、出身大学の計算式による値とする。





✓ 必要とされる英語能力

○TOEFL-iBT 79点以上

または

○IELTS (Academic) 6.0点以上

※出願時に、上記のいずれかのスコア（原本）の提出が必要となりますので、予め受験しておくことを推奨します。

※詳細については、学生募集要項でご確認ください。





✓ 履修スケジュール

	1年次												2年次												
	前学期						後学期						前学期						後学期						
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
熊本大学を 本拠とする 学生	熊本大学で 学修・研究開始						UMass Bostonに 渡航（留学）し、学修・研究						熊本大学に戻って、 学修・研究継続						研究発表・ 合同学位審査						
UMass Bostonを 本拠とする 学生							UMass Bostonで 学修・研究開始						熊本大学に 渡航（留学）し、 学修・研究						UMass Boston に戻って、 学修・研究継続						研究発表・合同学位審査

両大学連名による学位記授与

※新型コロナウイルスの影響により、スケジュール変更を伴う場合があります。

取得学位：修士（紛争解決学）

Master in Conflict Resolution

※両大学連名によるジョイントディグリー

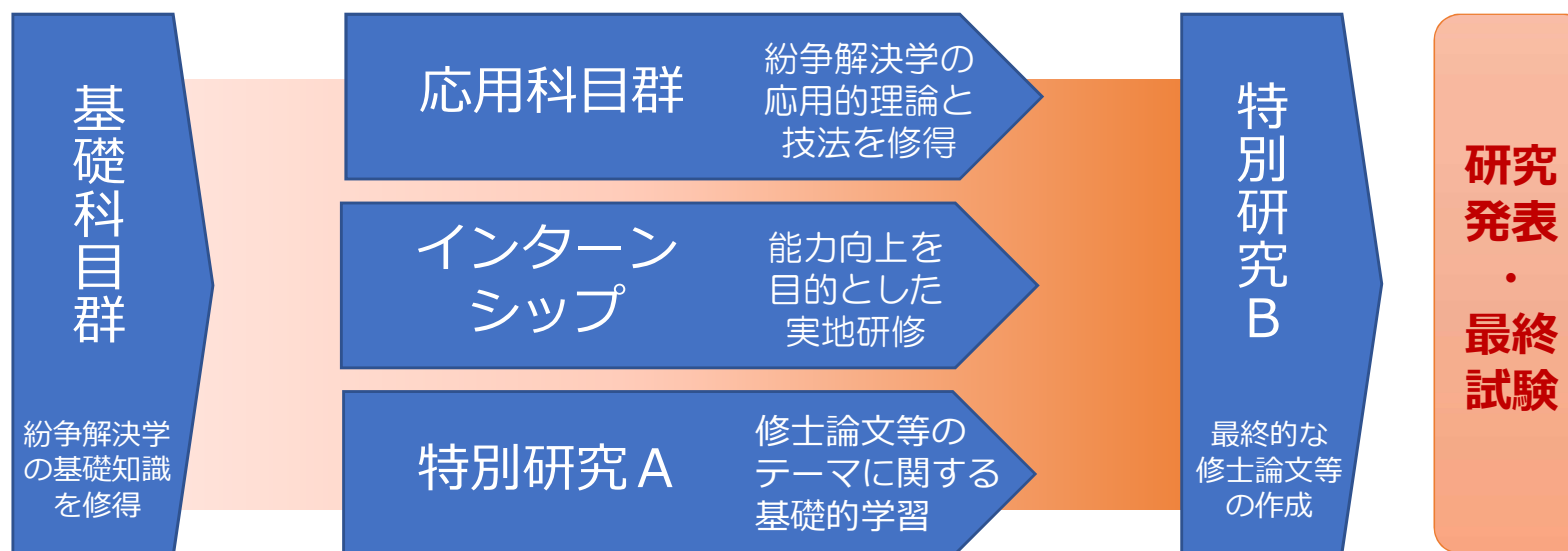




✓ 教育内容・方法

2年間の課程で、紛争解決学の理論的な学習と実地に紛争の現場で学ぶことによって実践的な学習もできるように授業科目を配置し、日米の紛争解決学の基礎から応用まで学べます。

また、アジアの特質なども学ぶことによって、応用範囲の広い知識を身につけることができます。





✓ 修了要件

2年以上在学し、熊本大学において18単位以上、UMass Bostonにおいて18単位以上、合計で36単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文又は特定の課題について研究成果の審査及び最終試験に合格すること。

✓ 学位審査

両大学の教員からなる合同審査委員会において、修士論文又は特定の課題について研究成果の審査及び最終試験（口頭試問）を行います。

合同審査委員会による審査は、熊本大学学生は1月下旬から2月上旬に熊本大学で行い、UMass Boston学生は5月にUMass Bostonで行います。

※修得すべき単位数や修士論文の定めが通常の専攻と異なります。



4. 学費・奨学金等



✓ 入学料・授業料

【入学料】 282,000円

【授業料】 年額 535,800円
(半期分 267,900円を4月及び10月に納入)

※ UMass Bostonの授業料は不要ですが、保険料などその他必要な費用について、UMass Bostonの定めに従って納入する必要があります。

※ 入学時及び在学中に料金の改定が行われた場合には、改定時から新たな金額が適用されます。





✓ 奨学金

日本学生支援機構（要出願・選考有）

○第一種奨学金【貸与型・無利子】

（令和2年度は、月額50,000円・88,000円から選択）

または

○第二種奨学金【貸与型・有利子】

（令和2年度は、月額50,000円・80,000円・100,000円・
130,000円・150,000円から選択）

その他、日本学生支援機構における海外留学支援制度（給付型・貸与型）、地方公共団体及び民間団体の奨学金制度もあります。



5. UMass Bostonの概要



UMass Bostonの美しいキャンパスは、世界的に有名なカレッジやユニバーシティが数多くある中心都市ボストンにあります。ここでの学びから、他に類のないレベルのエネルギー、創造性、文化を経験することができます。

ボストンは多くのインターンシップ、労働雇用、公共サービス、研究機会を提供する場所でもあります。その都市的・都会的環境は、マコーマック大学院生の研究に対して、複雑・複合的な問題に関する現実的な視点・展望を提供します。

ニュー・イングランドにおける主要な公立の研究大学として、様々な国籍の多様な学生に対して、馴染みやすい学習環境とアメリカの主要大都市特有の豊かで充実した体験を提供しています。

※UMass Boston <https://www.umb.edu/>

※マコーマック大学院 <https://mccormack.umb.edu/>

アメリカ国内で公共政策大学院の模範的大学院として認知されており、社会正義、ならび平等の実現に向けた研究に取り組んでいる。学際的な教育を提供し、今日の社会、政治、経済、環境に関する問題を理解し、その解決策を探るべく最先端の研究を行っている。





本件に関する問い合わせ先

※以下へメールでご連絡ください。

熊本大学教育研究支援部

人社・教育系事務課 社会文化科学教育部教務担当

メールアドレス：

jsj-daigakuin@jimu.kumamoto-u.ac.jp

